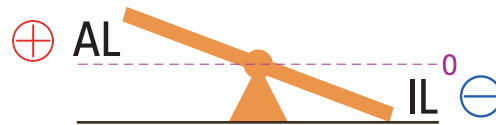


(図1c.に同じ)



参考3. アリューシャン低気圧(AL)とアイスランド低気圧(IL)とのシーズン形成の模式図

- ・ 1月に北東太平洋上で、アリューシャン低気圧(AL)の強弱を決める循環偏差がまず現れて発達し始めると(この図は平年より弱い場合で高気圧性偏差)、その影響が上空の大規模な波動(ロスビー波)として北米大陸に及び始める。これに伴い、カナダ西部上空に低気圧性の、米国南部上空には高気圧性の偏差が各々形成される。これが「架け橋」の西半分となる。
- ・ 2月になると、弱いALに対応する偏差はさらに発達して北太平洋を広く覆うようになる。その一方、北米を横切る「架け橋」の先端から別な波動が現れ、グリーンランドの南に低気圧性偏差、ヨーロッパ上空に高気圧性偏差がそれぞれ形成される。北大西洋上空の偏差は発達して、海上のIL勢力を変化させる(この場合は強化する)。これにより太平洋から大西洋への「架け橋」が完成する。地上では「架け橋」に沿って、我が国周辺では北西季節風が弱まって暖冬傾向、ヨーロッパも海からの南よりの風が強まってやはり暖冬傾向。(図1c.に同じ)

※ ALが強くILが弱い場合は、偏差の符号(平年比で高気圧性か低気圧性か、あるいは暖かいか寒いかが)全て反転する。ただし、太平洋の変動の影響が「架け橋」によって大西洋に及ぶ構図は同じ。